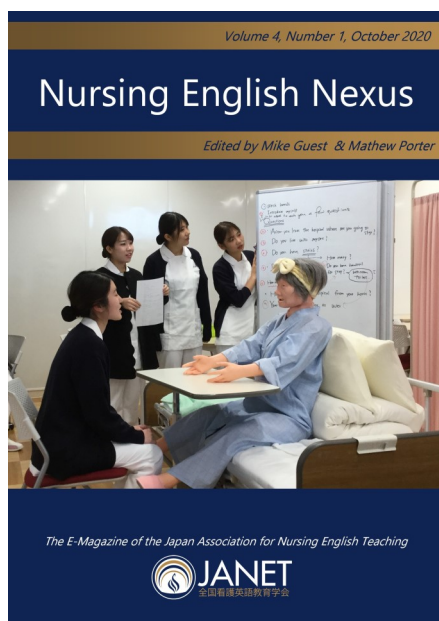


「私の科研」：医療福祉系大学におけるEMI (英語を媒介とする授業) 実施状況調査

斎藤隆枝

国際医療福祉大学 総合教育センター



Article citation

斎藤隆枝. (2020). 「私の科研」：医療福祉系大学におけるEMI (英語を媒介とする授業) 実施状況調査. *Nursing English Nexus*, 4(1), 33-34.

Nursing English Nexus

<http://www.janetorg.com/nexus>

ISSN 2433-2305

Nursing English Nexus is made available under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International License. Authors retain the right to share their article as is for personal use, internal institutional use and other scholarly purposes. English Nursing Nexus and the articles within may be used by third parties for research, teaching, and private study purposes. Please contact the author directly for permission to re-print elsewhere.



「私の科研」：医療福祉系大学におけるEMI（英語を媒介とする授業）実施状況調査

斎藤隆枝 (takaesaito@iuhw.ac.jp)

国際医療福祉大学 総合教育センター

Abstract: Project objectives: English is a necessary skill for medical specialists such as nurses in order to communicate with foreign patients and coworkers, even in Japan. Although an increasing number of Japanese universities have implemented EMI (English as a Medium of Instruction), colleges for healthcare specialists are also expected to introduce EMI. EMI allows students to learn practical English through a combination of both liberal arts and medical subjects. However, few such institutions report on their actual practice of EMI. The purpose of this research described in this short article is to clarify the necessary research parameters for the effective future introduction and spread of EMI. Methods: An online survey will be conducted to investigate how EMI is implemented in colleges for medical specialists, as well as its efficacy and challenges.

近年、外国人患者数が増加している。全国の医療機関を対象に行った調査では、調査協力した3,980病院のうち約半数の病院で外国人患者の受入れ実績があった（厚生労働省, 2019）。大都市以外に位置する病院でも医師も看護師も英語を使う機会が週に少なくとも1度はあるとの報告もある (Willey, McCrohan, Nishiya, & Tanimoto, 2016)。外国人患者とのコミュニケーションは説明責任の観点から必要に応じて通訳や自動翻訳デバイスなどが活用されるが、あいさつや気遣いなどの言葉かけ、あるいは救急の場面では患者の第一言語や「共通語としての英語」で行われることが望ましい。医療従事者にとって、英語運用能力はコミュニケーションツールの一つとして習得すべきスキルである。

一方、英語と第一言語としない国々の高等教育機関で英語を媒介とする授業：English as a Medium of Instruction (EMI) が注目を集めている。EMIには解釈において幾通りかの違いがみられるが、Dearden (2015) の “The use of the English language to teach academic subjects in countries or jurisdictions where the first language (L1) of the majority of the population is not English.” という定義が広く受け入れられている。EMIとは英語を第一言語としない学習者が一般・専門科目を英語で学ぶことである。英語運用能力については評価に直接影響しないが、学習者は内容理解や授業参加のために必要に応じた英語のスキルを習得することになる。

EMIには「学生の英語力向上」、「教員の英語力維持・向上」、「留学生数の増大」などのメ

リットがあり高等教育機関で積極的に取り入れられているが、その多くは英語を専門とする学部、EMP (English for Medical Purposes)を重視する医学部、もしくは所謂有名大学が中心であり、看護など医療の専門養成機関における実践報告は見られない。よって本研究は医療福祉系大学でEMIの実施状況と課題を調査し、EMI定着のために必要な論点を整理することを目的とする。

方法

調査対象校：看護学科を持つ4年制大学

調査方法：オンライン質問紙調査

及び聞き取り調査

調査内容：EMI科目の有無、EMI担当教員の雇用形態や研究背景、EMI科目の概要、課題や展望、Faculty Development活動との関連等

調査予定期間：2020年11月～2021年2月

本プロジェクトへの期待

国家資格取得を目指しつつ即戦力となる人材育成が求められる医療福祉系大学では履修要件の都合上、短期留学どころか英語学習を継続することが、動機づけの観点からも、時間的制約の観点からも難しい。また、日本で医療に従事する限り英語運用能力は重要ではないと考える学生も少なくない。EMIはこれまで評価の対象であった英語で「読む、聞く、話す、書く」技能を、本来の役割であるコミュニケーションツールとして、学習者の意識をシフトさせる一助となる。

本調査は、専門性の高い大学でEMIを導入した場合、どの科目でどの時期に実施することが

効果的であるかを判断する材料になる。外国人患者だけではなく、外国人労働者の受入れも増加しており、チーム医療のメンバーとも「共通語としての英語」によるコミュニケーションが必要になることは遠い未来の話ではない。円滑なコミュニケーションを軸にした質の高いケアを提供できる医療従事者養成のためにEMIが定着していくことを願ってやまない。

文部科学省科学研究費若手研究（令和2-3年度，課題番号：20827802）

参考文献

Dearden, J. (2015). Report: English as a medium of instruction.

<http://www.britishcouncil.org/education/ihe/knowledge-centre/english-language-higher-education/report-english-medium-instruction>

Willey, I., McCrohan, G., Nishiya, K. & Tanimoto, K. (2016). The English needs of doctors and nurses at hospitals in rural Japan. *Journal of Medical English Education* 15(3), 99–104.

厚生労働省. (2019). 医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査の結果(概要版).

<http://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000496345.pdf>